

関西地区 FD 連絡協議会報告書

氏名： 松井淳

所属/職名： フロンティアサイエンス学部 教授

参加セミナー名： 関西地区 FD 連絡協議会第 7 回総会

参加日時/場所： 平成 26 年 5 月 17 日 / 京都大学百周年時計台記念館

関西地区 FD 連絡協議会第 7 回総会に参加し、その中の「FD 活動報告会 2014」において、「学生の個人専用デスク集合スペース MyLab (マイラボ) を中心とする教職員・学生一体の科学教育」という題目でポスター発表を行った。

文部科学省高等教育局大学振興課長 里見朋香氏の基調講演「FD の現状と課題について」では、前半に FD の取り組み状況に関する説明があった。教員相互の授業参観、授業方法改善のためのワークショップ・検討会、講演会・シンポジウムなどの開催は、多くの大学が取り組んでいる一方、教員相互による授業評価、大学院生を対象としたプレ FD、授業コンサルテーションについては取り組み例が少なく、今後の課題として示された。また、GPA の制度の活用についても、具体的運用が進んでいる大学が少ないことが示された。後半は、大学教育再生加速プログラムなど、文部科学省の具体的取り組みについて説明があった。

その後、FD 分科会が 3 つの会場に分かれて実施され、その中の、森朋子氏 (関西大学) と溝上慎一氏 (京都大学) による「アクティブラーニングの新しい展開・反転授業」に参加した。森氏の前任地での具体的取り組みについて紹介があった。その一例である、ビデオによって予習した内容に関して授業内で演習問題を回答させる形式の授業では、授業への取り組み姿勢が改善したものの、反転授業導入前には見られた成績上位層が導入後には見られなくなったとのことで、ビデオ視聴を強いるプラス効果と自主性を損ねるマイナス効果に関して、今後の検討が必要であることが説明された。講演後のフリーディスカッションでは、授業の分野、配当年次、形式などによって、どのようなタイプの反転授業が適しているのかを見定める指針について議論がなされたが、何らかの指針が得られるには反転授業の事例が今後さらに増える必要があるとのことであった。

FD 活動報告会 2014 では、25 大学から取り組みの報告があり、各発表には、ピアレビューワーから 2 件のコメントが寄せられ、それをもとに活発な議論が行われた。